

平成 24 年度 第 3 回三原市市民協働推進委員会 概要

◇日時：平成 24 年 10 月 2 日（火）午後 5 時～午後 6 時 30 分

◇場所：本庁議会棟 3 階 委員会室

◇出席委員：11 名（欠席 3 名）

◇議事内容

1 開 会

2 協 議

(1) 市民協働のまちづくりフォーラムの開催について・・・別紙 1

(2) 連続講座の開催について・・・別紙 2

◇主な意見（○：委員の発言，●：事務局の発言）

(1) 市民協働のまちづくりフォーラムの開催について

○：ちらしについて、ひろしま NPO センターの名称の部分で、「特定非営利法人」を「特定非営利活動法人」に訂正をお願いします。

●：訂正します。

○：この資料は外に出すことはないんですか。事業 PR をどの担当課が行うのか分からないので、政策企画課と書いたほうがいいのか。パネルディスカッションについても、コーディネーターと助言者は書いてあるが、パネラーが書かれていないので、事例発表団体のみなさんと入れておいたほうが、来ていない方に配るのにも分かり易いのではないかと。

●：今後気をつけます。

○：アンケートの問 3 について、①～③とあるが、③の今後の課題は見つかったかというのが必要なのではないか。ちらしを見ると、「住民組織や市民活動団体の発表をもとに、どうすればもっと地域を元気にできるかみなさんと一緒に考えてみませんか」という投げかけをしている。つまり、本来聞きたいのは、どうすればもっと地域を元気にできるか、そのヒントを参加者がつかんだかどうか。課題はみんな山のように持っているのだから、悪いところを聞いても、元気になるということはない。それよりも、その課題を解決するヒントがあったかどうかを聞いたほうが良いのではないかと。そのほうが参加者にお土産ができるのではないかと。②の魅力が見つからなかった理由も聞かなくてもいいのではないかと。純然たるアンケートというよりは、こちらが誘導的なアンケートの聞き方になると思う。一番私たちが考えなくてはいけないのは、どうすれば地域が元気になるのかという結果を求めたい。その手段とか方法とかを私たちも探っていきたいし、共有していきたいし、地域に定着させたい。

もう一つは、問 4 の開催形態はシンプルにしたほうが良いのではないかと。ここまで細かく聞いても回答する人はいないかもしれない。整理してみると①と②は事例発表会で

市内・市外とあるがなくてもいいと思う。工夫して数を減らして聞いてみると良いと思う。

- ：問4のパネルディスカッションとワークショップについて、聞かれているほうはよく分からないかもしれない。みんなで話すこととか、もっと噛み砕いたほうが分かり易くてよいのではないか。
- ：ディスカッション、だけでも良いのではないか。
- ：こうすれば地域が元気になるというヒントを得た、というようなことを書いてもらうのではどうか。
- ：参加される方が持っているヒントを書いてもらうのは良いと思う。書きながらヒントが見つかるかもしれない。
- ：前向きになるようなものでアンケートを作り直して次回出させてもらいます。問4の表記の分かりにくさ・単語が難しいという点も訂正させてもらいます。
- ：アンケートは記入する部分が多いと書いて出してもらえないことが多いので、選択ができる形にしたほうが良いのではないか。
- ：今までより記入部分は増えているのか。
- ：増えています。
- ：今までの回収率はどれくらいなのか。
- ：手元に数値がありません。
- ：アンケートの時間を取るタイミングが難しいと思う。書く部分が多いなら、閉会の後に、アンケートに記入してくださいというような時間を設けるほうが良いと思う。

(2) 連続講座の開催について

- ：1 ページ目のワークショップは政策企画課が行うほうか、
- ：そうです。
- ：フォーラムへ参加している人で住所・名前をアンケートに書いた人に関しては、このワークショップの案内をすぐに送って参加募集に間に合うようにするのか。
- ：そうです。
- ：一般に対する周知はどうするのか。
- ：政策企画課が広報等ですでに募集はかけている。フォーラムの参加者には3回目から出してもらえるように案内する。
- ：連続講座について、三原市のボランティア団体・その他市民活動団体の現状やニーズはどういったものなのか。また逆に、三原市は団体をどういうふうに育てたいのか。問題点があるので、そこを勉強してもらえば団体が成長し、ひいては地域の活性化につながるといったように、施策としてどうしたいのか。

三原市の場合には、例えば団体同士の横のつながりとか、地縁団体と市民活動団体とのつながりとか、あるいはそこに行政も入って協働でやったほうが効果があるとか、そういったネットワークをどうするかというほうが良いのかもしれない。第3講座の評価

などは、少し面白みがないかもしれない。それよりは、ネットワークをどういうふうにするか、協働とは何かといった講座に置き換えるということもありではないか。

- ：協働とは何か、というのは入門編だと思う。今の案では入門編というのがないので、それを含めて考える。例えば1講座目に入門編をやって、それぞれの項目を1つずつずらしても問題はないか。評価か入門編か、どちらに力を入れたほうが良いのか考える。
- ：第4講座の事例発表会を最初に持ってきてはどうなのか。最近はフェイスブックやユーチューブなどを使ってインターネットで発信して個人で頑張っているような人も多いので、そういう人たちに焦点を当てて、その人たちはこんなことをやっている、それをどうみんなで盛り上げるか、どう繋がるか、どう行政と関わっていくか、というような講座をやると、初心者というか、今後取り込んでいかなければならない若い人も、自分達も情報を発信していけば良いんだと気付くのではないか。とにかく人材を増やしていけないといけないので、「団体」というと、例えば法人化したりとか、市民団体として登録したりとかいろいろあると思うが、そういう個人の人たちも魅力を感じるようなものではどうなのか。
- ：人材を引き込むために先にするのは良い案だと思うが、今回の事例発表会は、年度の事業報告も兼ねての発表会なので、申し訳ないが、1講座目に持ってくるというのは難しい。ただ、次からの参考にはさせてもらいたい。
- ：どういった団体をターゲットにするのが難しいのではないか。どういうふうに、どこに声をかけるのか。ニーズの問題になってくるのだろうが。
- ：講座4の事例発表会は、平成24年度の市民提案型協働事業の実施団体と、環境をテーマに活動している、みはらし環境会議に発表をしてもらおう。テーマを越えた発表会になるので、どの団体でも仲間づくりをしてもらえらると思っている。一昨年も開催した時にはたくさんの団体に参加してもらった。
- ：逆に言えば第4講座は固まっているということだから、これから市民提案型協働事業に手を上げるような団体をターゲットにするのなら分かり易い。この発表会を起爆剤にして、もっと他の事業も自分達たちでやってみようという自信をつけてもらおうとか、講座2の資金調達については、提案型協働事業が終わった後、どういうふうに資金を調達していくかとか、繋げることができる。組み立て方がいろいろある。
- ：確かに提案団体は今助成でやっているのだから、終わったらそうはいかない。
- ：かなり限定したターゲットになるが申し込み易いといえば易い。
- ：参加する数を集めるということも大事だと思うが、例えば参加者が20名だったとしても、講座を受けて実際に地域での活動が活発になってきたかどうか、そういった最終的な成果を見込んだうえでの組み立て方とか順番・中身を考えれば良いのではないかと思う。
- ：さきほどのフォーラムのアンケート問4で、今後どういった形態のフォーラムが良いかというのを聞いているが、もっと団体や先ほど委員が言われたような個人が発表できるような場を市のほうで作っていかねばならないと考えている。そういう形に、フォーラムを変えていかねばならないのではという思いがある。発表の場を作って、そ

して活動を知ってもらおう。連続講座の組み立てとは話が違ってくるのだが、そういう考えはある。

- ：やはり他の団体等とのネットワークというのが、大事になってくる。お互いの団体を知って、良いところを学ぶというのが今後必要になってくると思う。
- ：第1講座に地域資源の発掘とあるが、自分のところはこういった資源を持っているが、他の団体にも資源はあるんだ、というような繋がりができていない。また、講座1の「地域を見つめて、マネジメントの力をつける」というのは、分かり易いような、分かった気にさせてしまうような言葉だと思う。マネジメントと言えばヒト・モノ・カネなど様々あるし、分かった気にはなるが、具体的にどうやっていくのか。これだけでも5回くらいの講座になりそう。
- ：県域全体の団体を見ていると、活動も資金も乏しく、活動範囲も仲間内だけで小ぢんまりというのが多いので、期待される程度と現実のギャップをどう埋めるか。団体を運営している人たちに、ミッションをどうやって達成するのか、自分たちのしたいことは三原のニーズにマッチしているのか、資金調達や広報PR、人的な部分でどう巻き込んでいくか、それがマネジメント。それだけでも相当な中身になるので、ものの考え方の話になると思う。これを契機に、参加者が自ら考えるきっかけにさせていただくような講座になるのかなと思う。ポイントを押さえるというか、気付きの場を提供するということ。
- ：初級、入門編ということですね。
- ：今回はみなさんから意見を出してもらおうという思いがあって大まかなものしか決めていなかったが、協働とはという部分を入れながら、もう一度講座について練った形で次回出したいと思う。
- ：ひとつひとつの団体だけで解決できるような状況ではないので、多様な関係者が寄って、解決をしていくというのが今の大きな流れになっているので、協働とかパートナーシップが注目を浴びている。自分のところにはないものは、持っているところと繋がるしかない。全部まかなおうと思っても、パーフェクトな団体というのはそうそうない。それを協力してやっていくのが、三原のこれからのやり方のひとつだろうと思う。
- ：次回の宿題がありますが、今日はこれでよろしいでしょうか。